

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

【教科に関する調査】

	概ね身についているもの	課題があるもの
国語科	話すこと・聞くこと、読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項
数学科	図形、データの活用	関数、数と式
理科	「エネルギー」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域

【分析】

今年度国語科は「話すこと・聞くこと」については、全国平均を大きく上回り、「読むこと」については、全国平均並みの結果となりました。ICT 機器の有効活用により生徒の意見を引き出しやすい環境を整えた上で、「対話」を重視した授業を日頃の国語科の授業で行っていることや日々の朝読書により生徒の読解力を底上げしたことが、この結果に繋がったものと考えます。この一方で「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、敬語に関する問題が出題され、正答ができない生徒が目立ちました。授業だけでなく、日頃の言葉遣いも意識させることでより向上させていきたいと思います。

数学科は全体的に全国平均を下回る結果となりました。「関数」や「数や式」といった基礎基本の分野を苦手としている生徒が多いことが、この要因として挙げられます。数学科は既習分野を積み重ねていく側面が強いので、今後生徒が苦手としている分野を復習しつつ、新たな分野に進んでいくことで学力向上を目指していきます。

理科は全国平均を多くの分野で大幅に上回りました。唯一全国平均を下回った「『粒子』を柱とする領域」では、元素記号を覚えているかどうかが問われました。今後、暗記するべきものをしっかりと覚えさせる環境を醸成していくことで、より高い学力を目指していきます。

【生徒質問調査】

優れているもの	課題があるもの
・理科に対する学習活動 ・学習習慣 ・読書	・向社会性 ・自己有用感

【分析】

数学科や国語科、理科への関心は、ほぼ全国平均並みです。また、それらの教科に対する学習活動も同様の結果ですが、理科に対する学習活動は全国平均を上回っており、これが先述した【教科に関する調査】の理科の結果を牽引した要因の1つだと思われます。また、学習習慣や読書なども全国平均を上回っており、自分の学力を高めようとする生徒が多い傾向にあることが見て取れます。しかしながら、その一方で、全国平均と比べて向社会性や自己有用感が低い傾向にあります。これらから高めた自己を外（社会）に向けられない生徒の実態が推察されます。そのため、今後キャリア教育を推進していくだけでなく、学校全体の教育活動を通じて、生徒に自己決定の場をより提供していくことで、これらを高めていきたいと考えます。